

ご利用案内

入館料…無料

※個人見学は4月26日から11月14日の期間となりますのでご承知おきください。

区分	フルオープン期間(4月26日～11月14日)	団体専用期間(11月15日～4月25日)
受付対象	個人及び団体	団体・学校 予約のみ
開館時間	午前9時30分～午後4時00分 (最終入館午後3時30分)	午前10時00分～午後3時30分 (最終入館午後3時00分)
休館日	毎週月曜日・火曜日(祝日の場合は翌日) 国民の祝日の翌日、館内整理日	毎週土曜日・日曜日(祝日の場合は翌日) 国民の祝日の翌日、館内整理日

案内図

《所在地》
〒377-1711 群馬県吾妻郡草津町草津白根 464-1533
☎ 0279-88-1550 FAX0279-88-1553
URL : <http://sjpm.hansen-dis.jp/>

正門の200m先が
入り口です。

重監房資料館
草津温泉バスターミナルより
タクシー約7分・または徒歩約30分

草津方面からお越しの場合は楽泉園の正門を入らず200m先の未舗装路からお入り下さい。
※栗生楽泉園への一般車両の進入は禁止されていますのでご注意ください。

交通アクセス

鉄道・バス利用の場合

重監房資料館 徒歩約30分
タクシー約7分

※上越新幹線と新宿湘南ライナーは、高崎で吾妻線に乗り換え

新宿湘南ライナー
新宿 池袋 大宮 上野 東京

特急草津 高崎線 高崎

新幹線・あさま、とき 長野・上越新幹線

草津バスターミナル 草津温泉 草津交通バス 76分 軽井沢
東京から新幹線で70分
JRバス 25分 長野原草津口 長野新幹線あさま

上野から特急で152分
高崎から在来線で82分

車利用の場合

重監房資料館

真田 R144 草津温泉街 R292 大津 R145 渋川 R17 渋川伊香保IC
上田菅平IC R146 中軽井沢 R18 軽井沢 高崎JCT 東北自動車道
練馬JCT 鶴ヶ島JCT 関越自動車道 藤岡JCT

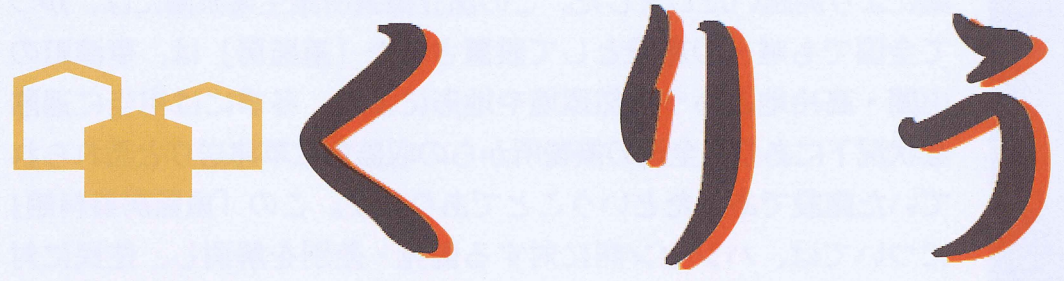
首都高速道路 中央自動車道

重監房資料館だより「くりう」第1号【創刊号】

発行日：平成26年(2014年)7月31日/企画・編集・発行：重監房資料館

〒377-1711 群馬県吾妻郡草津町草津白根464-1533 TEL：0279-88-1550 URL：http://sjpm.hansen-dis.jp/

重監房資料館だより



創刊号
No.1
2014.7
KURIU

重監房資料館がオープン



平成26年(2014年)4月30日に重監房資料館の開館記念式典が挙行されました。当日は、国立療養所栗生楽泉園入所者で全原協会長だった(故) 衍雄二さんはじめ、100人を超える御来賓の皆様のご出席を得て行われた式典に続き、重監房資料館運営委員長の黒岩草津町長、土屋厚労副大臣、藤田楽泉園入所者自治会長、全療協会長代行で多磨全生園入所者自治会長の佐川さんの手で紅白のテープが切られ、重監房資料館がオープンしました。



【黒岩信忠 委員長】

このたび、ここ群馬県草津町に「重監房資料館」が厚生労働省事業により開館いたしました。この国立療養所栗生楽泉園には、かつて全国でも唯一の施設として設置された「重監房」は、草津町の山間・高冷地という自然環境や地形により、冬季には相当に過酷な状況下であり、全国の療養所からの収監者に草津送りと恐れられていた施設であったということでもあります。この「重監房資料館」については、ハンセン病に対する偏見・差別を解消し、住民に対してハンセン病問題に対する正しい知識の普及・啓発を行なうこととして建設がなされました。そして資料館の運営をつかさどる「運営委員会」が設立され、その運営委員長にとの話をいただき、就任をいたしました。

この「重監房資料館」が有意義な施設として活用されるように、地元自治体としても、運営委員会で関係する委員の皆様とともに、協議を重ねてまいり所存であります。

最後に、「重監房資料館」開館に当たり、厚生労働省を始め、ご尽力をいただきました多くの関係者の方々に深く敬意と感謝を申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

平成26年7月31日

重監房資料館運営委員会委員長 草津町長 黒岩 信忠

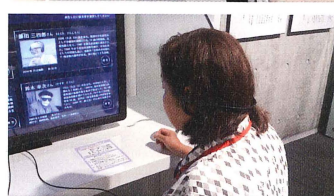
重監房資料館の内部



出土遺物展示コーナー



再現映像と1/20の模型



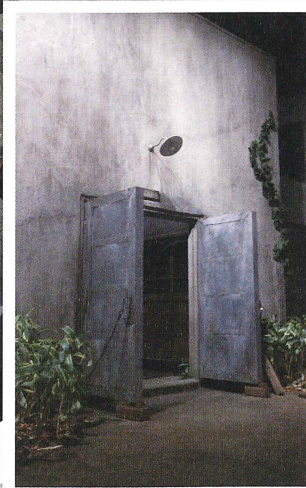
証言映像視聴ブース



歴史パネル展示



主な出土遺物



重監房実寸大再現展示

開館記念式典で厚生労働副大臣が伝世の意義を強調

平成26年(2014年)4月30日、午後1時20分より、当館駐車場特設会場において開館記念式典が挙行されました。厚生労働省を代表して主催者挨拶に立った土屋法子厚生労働副大臣は、重監房資料館の完成にあたり、「二度と繰り返してはならない過ちの歴史を後世に伝えて行くことが重要だ。」としたうえで、「元患者やご家族の方々の苦難の歴史を忘れず、今後のより良い日本の国作りに活かしたい。」との決意を表明しました。



【挨拶する土屋厚労副大臣】

重監房資料館を人権啓発の拠点に… 弐雄二さん逝く



【病を押して出席された弐雄二さん】

また、当館設立に奔走された全原協会長の弐雄二さん(5月11日逝去、享年82歳)も体調不良のなか病床から駆けつけてくださいました。重監房の記憶を負の遺産として後世に残したいとの強い信念を貫かれた弐さんは、当館の開館を見届けて旅立たれました。ご生前の壮絶な闘病生活と当館の設立を願ってやまなかった幾多のご労苦は、まさに弐さんの生きた証しとなりました。衷心よりご冥福をお祈り申し上げます。

内覧会の様子

5月1日の一般公開に先立って、来賓の皆様や報道関係者への内覧会も行われ、一部実寸大で再現された重監房や出土遺物の実物展示、ハンセン病問題に関する歴史パネル、再現映像などを見ながら疑問点を学芸員に質問するなど、熱心に見学や取材をされておられました。



【再現展示を観る厚労副大臣と群馬県知事】

重監房資料館はハンセン病をめぐる差別と偏見の解消を目指して国(厚生労働省)が設置した国立の資料館で入館は無料です。

